

校長研修だより64

立腰・立人・立志 りつよう・りつじん・りっし

2022・6・20 重枝 一郎

私が 20 代の頃、同僚間で流行った？よく読まれた？生徒指導のヒントになる本があった。

「立腰 立人 立志」りつよう りつじん りっし

その本は、神戸の元校長先生(※)が学校だよりをまとめられたもので、文章の一つひとつが私の腑に落ちた。その中で、先の三つの言葉が人生で大事であると書かれていた。

(※山本紹之介氏 1922 年生)

立腰 腰を立てよ おしりをうしろに下腹部を前にすると腰が立ち胆力とやる気がわいてくる。気持ちが落ち着き、主体的に生きる力が備わりしっかりとした人間になれる。

立人 人を立てよ ひとのよいところに目をむけ、人の気持ちをわかる人になり、人の幸せのために努めることが人を立てる中心となると思えば自ずとやる気が出る。

立志 志を立てよ 明確なはっきりしている目標を立てると目が生き生きとし顔が輝いてくる。そうすると不思議といろいろな力が内側からわいてきてやる気が出る。

何か失敗したり、うまくいかなかったりしたときは人のせいにするのではなく、この三本の柱のどれかが自分の中で弱くなっていると考えよ。バランスよく強くしていけば人生はうまくいくはず。それでもうまくいかないときにはじめて他の原因や他者への働きかけに努めよう。

と書かれていた。

「立腰」。例えば授業開始の際、「腰を立ててごらん。気持ちが前向きになるよ」と言うとき背筋がすっと伸びて、姿勢がとてもよくなるのが実感できる。私は、休み明けの授業の時やテスト前に取り組みなどは必ず姿勢づくりから行っていた。いつも授業をきちんと聞くことができる身体・姿勢づくりから始める。そして、学び合う仲間たちと「立人」について共有し、さらに自らの未来を見据える「立志」へと歩を進めていけるようにしたいと思っていた。「立腰」に関する言葉で、下に書いた言葉を聞いたことがあると思う。

腹を立てずに 腰を立てる 生徒に向き合う時や壁にぶつかった時などに役に立つ

生徒を指導する上で腹が立つことはある。しかし「腰を立てる」ことで気持ちが落ち着き、ぶれなくなり、授業の見直しと並行して、生徒指導・学級経営に周囲の力を借りて、突き進むことができる。

実は、「目標管理シート」はこの「立腰・立人・立志」が本質にある。「立腰・立志」は言わなくてもわかると思うが、「目標管理シート」では「立人」が肝であると思っている。同僚の見えている世界を知り、応援したり、認め合ったりすることができるからである。せめて隣の席の同僚や同教科、同学年の同僚の目標は知っておこう。